



日常の景色にある SDGsを見つけてみる —その8

都市部では、バスや電車などの公共交通機関が整備されているため、比較的スムーズに移動することができます。しかし、鉄道駅から離れていたり、バスの本数が限られていたりする地域では、買い物に出掛けた



▲ 自家用車の利用を控え公共交通機関を利用することは、二酸化炭素排出量の削減や渋滞の解消にもつながる
(撮影＝江見彩香)

り、病院に通院することも大変です。公共交通機関が届かない交通空白地域を解消するためコミュニティバスを運行しています。このように、全ての人が安心して使える公共交通機関を整えることは、SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」に貢献する取り組みです。

また、ゴール9の「産業と技術革新の基盤をつくろう」という視点から、最新技術をうまく取り入れることで、より利便性の高い移動が可能になります。例えば、スマートフォンを使えば、最寄りのバス停や路線を調べることができます(※注)。ほかにも、ゴール10「人や国の不平等をなくそう」の視点から、何らかの障がいを抱えていたり、高齢であったり、さまざまな理由で移動に困難を感じている人にとって、使いやすい移動手段にしていくためにはどうしたら良いか考えることも、住みやすい亀岡を実現するために必要なことです。

交通機関に限らず、SDGsの視点をうまく使って、現在の生活をより良いものにする工夫と一緒に考えてみませんか。

注)※市ホームページ「スマホを使って最寄りのバス停を調べよう!」を参照

市ホームページ▶



高木 超(たかぎ・こすも) 文章

▶ 慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 特任助教
亀岡市参与 (SDGs アドバイザー)

江見 彩香(えみ・あやか) 写真

▶ 元ファインダー女子広報部
女子学生による亀岡のPR隊
“ファインダー女子広報部”
(2018-2019) として活動。
現在、プロのフォトグラファー
として奮闘中!

